

水田農業を巡る情勢

令和8年2月10日
福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

【令和7年産米の動向】

1. 相対取引価格（12月）

(1)全 国：相対取引価格は、高温障害や病害虫被害等を背景とした減収予測による昨年
から続く集荷競争激化により概算金が昨年より3割から7割程度高い価格で
設定されたこと等から、全銘柄平均**36,075円/60kg**対前年同月比+11,410円
(+46%)対前月▲418円、取引数量は34.1万トに対前年同月(+66%)となった。
年産平均36,587円/60kgと**過去最高価格水準**を維持している。

(2)福島県：年産平均で**中通コシ37,039円/60kg（前年比137%）ひとめぼれ36,574円/60kg
（前年比139%）**となっている。

↓

一方スポット相場で2万円/60kg（置場渡）代前半まで急落する銘柄も出てきている。

2. 主食用米集荷・契約・販売状況（12/未）

(1)全 国：集荷 2,491千玄米ト（前年比116%）契約進捗（前年比104%）販売進捗（**前年比81%**）

(2)福島県：集荷 160千玄米ト（前年比136%）契約進捗（前年比201%）販売進捗（**前年比78%**）
集荷・契約進捗は堅調であるが、**需給緩和懸念により販売進捗鈍化が顕著**

↓

結果、需給緩和基調なのに米価高といった過去に例を見ない歪な状況となっている。

3. 米の消費動向（米穀機構発表12月分）

一人一か月当たりの精米消費量は対前年同月比▲6.3%と減少傾向が続いている。

米価高を起因とする消費減（特に家庭内消費）の影響が顕著

4. 民間流通在庫（12/未）5,000ト超の集荷業者・4,000ト超の卸売業者が対象

全国の12/末の民間在庫量は338万ト（対前年同月差+85万トうち備蓄米0.2万ト）と集荷
進捗と連動し増加している。**うち当福島県は24.2万ト**となっている。

**なお政府備蓄米在庫は32万トと基準在庫100万トを大幅に下回っており、需給緩和局面
の中、放出済備蓄米の買戻し、令和8年産買入等、政府動向が注視**されている。

5. 主食用米需給動向及び価格動向（1月時の現状DI及び3か月見通し・店頭価格等）

(1)需給動向：前回調査比▲2ポイント、向こう3か月の見通し（今月の数値24ポイント）
と生産量増や輸入米流通増等により**「さらに需給が緩和する」**との見通し。

(2)米価水準：前回調査比▲1ポイント、向こう3か月の見通し（今月の数値26ポイント）
と流通増による販売不振から**「さらに安くなる」**との見通し。

(3)店頭価格：1/26週**平均価格は4,194円/5kg**うち**ブレンド米3,788円/5kg**（前週比
+0.5%・+20円）と徐々に値下げトレンド局面も横ばいの状況

6. 令和7年産水田作付面積・収穫量（令和7年12月12日発表）

(1)主食用米作付面積・収穫量・作況単収指数

①全 国：**136.7万ha（前年+10.8万ha）**収穫量**7,468千ト** 作況単収指数**102**

②福島県：**67,000ha（前年+1.05万ha）**収穫量**382千ト** 作況単収指数**102**

③福島県では、米価高を背景に**主食用米が非主食米（特に飼料用米）から転換増**

【需給動向・令和8年産主食用米生産動向・政府の動き】

1. 主食用米等の需給見通し

(1) R7/8需給見通し（令和7年10月公表基本指針による）

令和8年6月末民間在庫見通し 玄米215～229万ト 精米191～205万ト

(2) R8/9需給見通し（ ）

令和9年6月末民間在庫見通し 玄米215～245万ト 精米191～220万ト

(3) 令和8年産の主食用米の生産動向（令和8年1月13時点の政府の生産目安推測値）

面積1,343千ha(前年実績差▲24千ha) 数量724万t(政府提示需要量711万t差+13万t)

(4) 上記(3)の令和8年産目安推測値を加味した民間在庫見通し（独自試算）

令和9年6月末民間在庫見通し 玄米215～258万ト 精米191～232万ト

(5) 民間貿易による輸入状況（枠外関税341円/kg部分）

2025年12月累計の枠外輸入数量が96,834トと前年1,015トの95倍の見込との財務省発表
需給緩和見通による米価下落懸念より「尻すぼみ感」あるものの過去最高を記録



これまでの適正在庫水準 玄米180～200万トから見れば一段と需給緩和が見込まれ
当面の「放出済備蓄米59万ト買戻し」「令和8年産備蓄米21万トの買入」に向けた
政府の動き（買入価格・時期等）、民間貿易による輸入米増の状況を注視する必要

2. 政府の動き

(1) 米の安定供給に係る 短期的な対応策

①在庫量、出荷、販売取扱量等の流通情報の把握等実態把握強化（届出対象拡大）

②届出事業者等の違反抑制と是正のための的確な情報把握の担保

③生産量減少以外の不足要因への対応を目的に食糧法改正し 備蓄の定義（目的）見直し

④ 民間備蓄の官民役割分担と運営方法を民間事業者意見を踏まえ 具体的仕組構築

(2) 食糧法見直し（上記(1)を踏まえ）

①流通実態の把握強化（届出対象拡大・定期的在庫報告・罰則引上げ措置）

②米の備蓄（備蓄目的見直し・民間備蓄運用・放出指示・勧告公表等）

③ 生産調整に関する規定削除・需要に応じた生産促進（生産者努力義務・情報提供等）

(3) 令和8年度関連予算（生産性向上・高収益作物・新市場開拓米・施設再編合理化等）

①水田活用の直接支払交付金等予算（概算決定額2,752億円）

生産性向上（スマート農業・多収品種・直播・土壌診断等）や高収益作物等の定着

「コメ新市場開拓等促進事業」（輸出用米・加工用米・米粉用米・酒造好適米）

「畑地化促進」 「飼料用米」

②共同利用施設整備支援

「強い農業づくり総合支援交付金」 「新基本計画実装・農業構造転換支援事業」



令和8年度予算は、大幅改正を予定している令和9年度水田活用予算の前年度として
食料・農業・農村基本計画に基づく「生産性向上」「農業構造転換集中5か年計画」
に準拠した予算となっている。